

製品名: BART1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07468**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	25kDa

抗原情報

遺伝子名	ARL2BP
別名	ARL2BP; BART; BART1; ADP-ribosylation factor-like protein 2-binding protein; ARF-like 2-binding protein; Binder of ARF2 protein 1
遺伝子 ID	23568.0
SwissProt ID	Q9Y2Y0
免疫原	抗血清はヒト ARL2BP 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

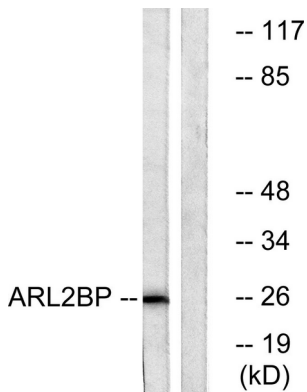
背景

ADP リボシル化因子 (ARF) 様タンパク質 (ARL) は、RAS 関連 GTPase の ARF ファミリーにおいて、機能的に異なるグループを構

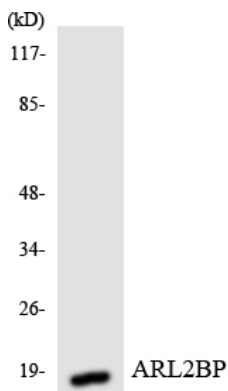
成します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ARL2.GTP に高い親和性で結合しますが、ARL2.GDP、活性化 ARF、または RHO タンパク質とは相互作用しません。ARL2 が活性化された際に、このタンパク質または ARL2 の膜結合が検出されないことは、ARF とは異なる作用を示唆しています。このタンパク質は、ARL2.GTP と相互作用する一方で、ARL2 GTPase 活性化タンパク質活性を示さないことから、初めて同定された ARL2 特異的エフェクターと考えられています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: ADP リボシル化因子様タンパク質 2 (ARL2) のエフェクターとして役割を果たす可能性がある。、PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。、類似性: ARL2BP ファミリーに属する。、サブユニット: GTP 結合型 ARL2 および ARL3 と相互作用する。複合体 ARL2-ARL2BP および ARL2BP 単独は ANT1 に結合する。、組織特異性: 普遍的。、

研究分野

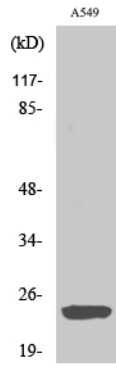
画像データ



A549 細胞ライセートの ARL2BP 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ARL2BP 抗体を使用した HUVEC 細胞溶解物のウェスタンブロット分析。



BART1 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析